

第4回 神崎市水源地域振興対策ワークショップ 議事抄録

開催日時	令和4年12月2日(金) 19:00~21:00	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員会	五十嵐委員長(佐賀大学)
	脊振町	久保山: 1名 頭 服: 1名 岩政倉今: 2名 広滝下: 1名 広滝東: 1名 鳥羽院: 1名
	神埼町	朝 日: 7名 小 淵: 11名 仁比山: 4名 志波屋: 4名 姉川上分: 1名
	千代田町	小 鹿: 1名
	国土交通省	佐賀河川事務所 4名
	佐賀県	城原川ダム対策室: 2名
	事務局	神崎市産業建設部ダム対策課: 4名 神崎市脊振支所: 2名 中央開発(株): 3名

注) 地元参加者の下線は検討委員会委員を示す

議事録

開会 (事務局)	・高島課長が進行を務める旨を説明。
配布資料の確認 (事務局)	・配布資料を確認した。 [配布資料] 次第 資料-1: 神崎市水源地域振興計画(素案)抜粋版 資料-2: ワークシート(具体的施策について) 城原ダム建設事業 事業説明 ご意見記入用紙
あいさつ (事務局)	コロナの影響等により間隔が開いたことのお詫びと今年度中の計画とりまとめ予定であることの説明。本日は水源地域振興計画(素案)の説明と意見交換が中心となるため、これまでのようなグループ形式の検討ではない点について説明。
城原川ダム事業 について (国土交通省)	佐賀河川事務所中山副所長より「城原川ダム建設事業 事業説明資料」に基づき、城原川ダム事業の状況について説明が行われた。

本日の進め方 (事務局)	本日の協議事項として、①神崎市水源地域振興計画(素案)の説明と、②振興計画における具体的施策メニューの紹介とそれに関する意見交換の2点について行うことを説明した。
水源地域振興計画(素案)説明 (事務局)	事務局より資料・1「神崎市水源地域振興計画(素案)」の抜粋版を用いて、振興計画の説明が行われた。
議題(1) 振興計画の質疑	事務局より説明のあった水源地域振興計画(素案)についての質疑を行った。
(参加者1)	方針-2、4に関わるものとして、付替道路のルートによって人や車の流れが変わってくると思うが、本計画で検討の余地はあるのだろうか?
(事務局) (国土交通省)	本ワークショップについては地域振興に関わる議論の場であるため、ダム工事に関連する事項については、別途説明の場を設けたい。
(参加者2)	<ul style="list-style-type: none"> ・流水型ではなく貯水型のダムとする可能性は? ・農業用水への支障はあるのか? ・脊振の道路は道幅が狭く支障となっている区間が多いが改善されるのか
(国土交通省)	<ul style="list-style-type: none"> ・流水型の治水専用ダムという形式については長い間の議論を踏まえて決まったこととなる。また、農業用水等の支障になることは生じない。 ・新しい付替道路は十分な幅員を確保して片側に歩道を設ける形で計画している。
(参加者3)	<p>脊振にもダム下流にも名勝が多い、仁比山の仁比山神社、九年庵、伊藤玄朴生家などある中で、仁比山神社の参道を上がったところに駐車場が少ない。そうした点も今後詳細を進める中で配慮してほしい。</p> <p>岩屋から広滝に至る道路沿いの桜が3月終わりから5月の連休前まで標高に合わせて段階的に咲いていく。これらも含めた振興計画も必要。こうした資源を結ぶ神埼三瀬線の桜街道での観光道路としての位置づけも必要。</p> <p>(事例として長崎県諫早市小長井町のフルーツバス停など)</p>
(事務局)	方針-2の歴史資源のネットワークなどの中で、「かんざきまちあるき」の観光ルートなどを活かしたルートの創出、道路整備についてもうたっており、今後意見をいただき具体化していきたい。
休憩	10分
議題(2) 具体的施策	具体的施策について資料・2「ワークシート」を用いて意見交換。方針-1よりテーマ別に意見交換を進めた。
(事例紹介) 白木地区 脊振を愛する会	<p>平成26年に「脊振を愛する会」を立ち上げた。会員は約40名。高齢化が進む中で活性化をしたいというのが当初の目的。現在、10程度の施策を進める中で計画に記載のある白木地区にアジサイを植える活動、高取山公園に2500本あるシャクナゲが公園の正面からは見えないので、これらを案内する活動、脊振山の旧登山道の管理などを行っている。また、倉谷地区のかかしづくりにも参加している。</p> <p>高齢化と新しい人が入ってくれないことが課題。また資金面はほぼ手弁当でやっている状態。ほかのグループとのタイアップや、脊振中学校1年生の「ふるさと学習」</p>

	<p>の支援として生徒に地区の名所を紹介するという中で、めがね橋、広滝第一発電所、後鳥羽神社などを紹介することも進めている。資金と人手不足がこうした計画の推進の中で解決できればと思っている。</p> <p>補助金も一部活用しているが期間が最長で3年ということもあり、補助金の渡り歩きをしている状態。</p>
(参加者4)	脊振の森林は私有林、県有林、国有林などどのような状況か？
(事務局)	市有林、国有林、民有林で構成されている。
(参加者4)	現在、佐賀県有林のカーボンオフセット（J-VER）制度に協力している。神崎市でも同様な取り組みができるようなら協力したい。
(事例紹介) 小湊地区 水車の里振興会	<p>小湊水車による米つきを担当している。平成27年度に県のさがチャレンジ交付金事業に応募したことをきっかけに活動を続けている。春と秋の九年庵の催しの時にしか活動しておらず、それ以外に不定期に子供クラブや企業の見学に対応している。</p> <p>「水車米」の名称で、ふるさと納税の返礼品としても商品化を考えたが、単独では難しく、他の商品との組み合わせなどできないかと検討中である。</p> <p>また、小水力発電について直径40cm程度のステンレス製の水車で得た電力を自動車用バッテリーに蓄えて街灯等に使用することを実証実験中で、うまくいけば地区内の水車跡を利用して発電施設を増やしていくことも考えている。</p>
方針-2	歴史資源・水文化を活かしたまちづくり・ネットワーク構築
(参加者4)	仁比山神社には12年に一度の「大御田祭」がある。また、仁王門の仁王像についても文化財的価値は高いと思うが、調べられていない。これらも本計画に含めて、伊東玄朴記念館ができるのであれば、そうした中に取り込んでもらえればと思う。
(参加者1)	朝日、小湊、仁比山の里山景観を守りたい。耕作放棄地などもあるため、田園美術館的なものも含めて里山の保全ができればと思う。九年庵に来た観光客が30分から1時間で回れる範囲に、梅の花や温泉などもあるため、散策とグルメも含めた楽しみ方ができるような面的な活用ができればと思う。
(参加者2)	仁比山神社の話題が多いが、八天神社（土器山）も地元の人にはなじみがあり、初日の出には八天山に登る人も多かった。ただ、登山道が整備されておらずアクセスが悪いため、現在は小学校の遠足等は日の隈山に行っている。八天山に安心安全な登山道を整備して観光の立寄地のひとつにできればと思う。
(参加者5)	外部から観光で訪れる人も九年庵までで、脊振まで足を伸ばす人はほとんどいないように感じる。新しい道路もできるので吉野ヶ里方面から九年庵を通って脊振までをつなぐ観光ルートとして位置付ければ活性化につながる。
方針-3	農・特産品の魅力創出：意見なし
方針-4	働く場、住環境の整備（空き家対策、移住の推進など）：意見なし
方針-5	わかりやすい情報発信：意見なし
推進体制	意見なし

<p>委員長総括 (五十嵐委員長)</p>	<p>本日はお疲れさまでした。いただいた意見を委員会に反映したい。 総括というか感じたことについていくつかお話ししたい。 まず、付替道路によって様々な影響を受けるという話があった。それは工事に関わる場で議論するという話になったが、住民のニーズは多様で、にぎわいがほしい、でも静かな環境もほしいなどいろいろな要望がある。そういったものを踏まえた時に、私たち検討委員会が最も重要視したのは、人口減少・高齢化・過疎化である。今住んでいる方々がずっと住み続けられる、そして人口が減って担い手がない、できたら移住者も来てほしい、あるいは移住までいなくても地域を支えてくれるような人達がほしい。先程、この図でひとつの村、ひとつの団体がこれまで頑張ってきた、しかし、将来はちょっときびしい、だったら横で連携しましょうという話があった。更に言うと、こうした活動を応援する人、例えばNPOの経験がある方は資金の調達に詳しい、色々なところとネットワークもある。こうした活動を支える外部の人、色々な知恵を持っている人がいる。今はNPOも事業性を重要視するため、お金を稼ぐことも一生懸命やらなくてはならない。企業も社会貢献だけでなく自分たちの企業の成長のために、こうした課題の解決を本業にする企業もでてきている。だから、今いる人達だけではきびしいけれども、応援してくれる人たちをいかに巻き込んでいくか。そのキーパーソンに移住者がいるかもしれない。そうすると、こうした（横の）つながりがこちら（縦）にもつながるようになる。これを目標の中では定住人口ではない交流人口、観光でもない関係人口という言葉で表現している。プロジェクトの推進体制の中で、今日の話の中でも田園博物館（大地の芸術祭）や八天山の散策路を整備するといったご提案があった。どうかその思いを、このプロジェクトの中に入って、参加していただきたい。つまり、地元の人たちだけではできない知恵や活力、色々な人を巻き込んでいってプロジェクトを進めていく、それがこの（推進体制の図）考え方である。個別のプロジェクトはテーマごとに今まで担ってきた人だけじゃなくて、いろいろな人を巻き込んでいきましょう。そうするとパワーアップしていく。あるいは、補助金だけに依存しないで自分達で稼いでやることもある程度可能になってくる。そういったことを踏まえて来年度プロジェクトを立ち上げる過程で、積極的にこれらの活動に参加してほしいと思う。今までの団体とか地区とか、それを越えて集ってほしい。</p> <p>先日、かかしまつりに学生とうかがったが、とても面白かった。佐賀の大和町でも案山子祭をやっているが、今年はひとつの集落だけじゃなくて松梅地区全体でやるようになった。小学校単位の協議会を作っているが、今も地区のあちこちに案山子を置いている。つまり、ひとつの集落だけではきびしいけれども、連携することで広がりが生まれている。</p> <p>そのような形で、今私たちが作っている基本計画、メニューは横並びにただけである。何を優先してやるのか、どこから手を付けるのか、いつ始めるのかは、来年度作られるであろう推進会議の中で自由闊達に議論をして進めていただきたい。</p> <p>そのための基本的なメニューを3月までに委員会の中でとりまとめて市に提出したいと考えている。</p>
---------------------------	---

	<p>ここにお集まりの方々皆で地域を作っていただきたい。特に、ダム・山、その恩恵を受けているのは中流・下流の方々である。是非とも中流・下流の方々が上流の水源地域を応援してほしい。観光客だけが吉野ヶ里から脊振に来るだけではいけない。今住んでいる中流・下流の方々が上流地域を支えていただきたい。その思いで上下流交流を本計画の中で重視している。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
(事務局)	<p>今後のスケジュール: 本日いただいた意見も踏まえて計画(素案)を策定し、次回の委員会で検討の上、修正を行い、その後、パブリックコメントを実施したい。それも踏まえて計画案を修正し、最終の委員会で承認の後に、市議会で説明して今年度末に計画策定を完了する。来年度からは具体的施策の推進に移行する予定である。</p> <p>本日のワークショップについて他にも意見のある方は、配布した「ご意見記入用紙」に記載の上、本脊振交流センターまたは市役所ダム対策課までお持ちいただくか、封筒も用意しているので郵送願いたい。12月16日までに提出をお願いしたい。</p>

以上

氏名	参加者 1
資料-1 水源地域振興計画 (素案) について	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史資源：脊振神社：宗像、巖島神社等とのつながり、朝鮮から博多に来ると時の山あて⇒大陸とのつながり 現在もレーダー基地 ・農産品：山野草豊か、販売、料理の普及
資料-2 具体的施策につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・用水路：県の街づくり委員会で城原川の見学会を企画し、大型バス2台で回った。アンケートで多くの人が一番感動したのは、鶴西の水路であった。城原川の水利用の面も関心を持つ人は多い。(三千石堰、脊振も)
今後の推進体制 について	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな拠点：高知県の集落活動センターを参考にする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・付替道路のトンネルが長い。分断(心理的な)になるのではないか。専門家の意見を聞きたい。
氏名	参加者 2
資料-1 水源地域振興計 画(素案)につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・計画はすばらしい。 ・脊振町の特にダム上流域の振興計画が薄い。 ・地域振興は下流も大事であろうが、上流地域は交通手段にはじまり手ぬるい。この機会を利用して、旧村内の上流地域に存在する多くの名所の整備をしてもらいたい(観光地には来訪者のためのトイレの整備、駐車場の整備をする)。現在は色々な利用制限の中で、条例を含めて制限事項が多すぎて事業をやるにもできない理由に邪魔されてできていない。上流地域には素晴らしい資源があるので検討をお願いしたい。 ・また、脊振交流センターは今後のダム上流の取りまとめの基点として大いに頑張ってもらいたい。交流しようとする芽を大きく育ててほしいと考えているが、現在は小さな芽を切り取るような傾向にある。一刻も早く正常化し、脊振交流センターの主旨のとおり活動をはじめてもらいたいし、ダム問題についても気楽に相談できる体制づくりをしてほしい。 ・私は当初から流水型ダムを前提としたワークショップには疑問があったが、決定されたものの中で、何とか住民の理解を受けるようにしてほしい。ワークショップについては今後の方向性が一部示されたものもあり評価したいが、会議の中で参加者が訪ねる事項を簡単に拒否しているのは残念である。 ・ダム水没地の人達は大変なご苦労があることは承知しているが、代替移転地等十分な対策をしてほしいが ・【提案】市が主宰するダム関連の会議が全くない。上流も下流も当事者も、それぞれの思いを言いたいと思う。その会が地域の活性化を生む最短の方法だと思われる。特に上流に住居のある住民はダム建設に伴って、経済圏は勿論のこと、居住の移転を考える人もいる。市も真剣にダム問題に関わっていく姿勢をしっかりと見せてほしい。区長会等での通り一遍の報告は不要。実のある会をお願いしたい。